

# ビジョンの取組施策

地域活性化につながる取組施策として、前ページに掲げた取組方針1～9に対応したものを提案しています。

1. 白川ダムや置賜白川について理解を深める	
◆水循環、水源地域や川のあり方、環境について知る	
強化 自然観察会・勉強会の実施	
強化 水質調査(放流前後)、生態系調査の実施、充実	
強化 水源林の環境調査	
新規 河川水辺の国勢調査の公開(チラシ配布等)	
新規 白川に生息する生物のパンフレットの作成	
新規 ダム放流に関する河川環境モニター制度の実施	
新規 各種調査結果の一元管理	
◆ダムの仕組み・機能(治水と利水)を知る、伝える	
強化 ダムHPで四季の魅力、ダムイベント等の情報発信	
新規 ダム周辺の魅力をPRするパンフレットの作成	
新規 ダム関連施設の情報発信機能の充実、ダム情報の一元管理・発信	
3. 水を守る(水質改善)	
◆白川ダムや置賜白川の水質の状況を調べる	
強化 水質調査(ダム放流前後)	
強化 水源林の環境調査	
新規 河床低下と濁りとの関係調査・モニターの実施	
◆水質の改善のための対策を実施する	
新規 貯水池の長期濁水化の原因調査	
新規 水質悪化要因と対策に関する情報交換・研究	
新規 支障木伐採、炭焼きを行い炭の浄化作用を活用	
新規 ダム濁水対策、ダム放流の弾力的な運用の検討	
5. 地域の景観を守り、育成する	
◆景観資源の把握とPR	
新規 貯砂ダムの水位と景観・生態系の関係、目指すべき景観イメージの検討	
新規 貯砂ダムの嵩上げ	
◆景観の保全と改善	
新規 最上川フットパスの概念の導入検討	
6. 水辺に親しむ	
◆白川ダムや置賜白川との日常生活の中でのつきあい方を見直し、広める	
強化 ダム放流・利用に関する情報提供	
強化 住民による親水空間調査	
新規 地域社会で「川の利用のルール」づくり	
新規 川遊び復活指導、住民の自主管理の仕組みづくり	
◆水辺に親しむ活動を推進する	
新規 既存施設活用(ヤナ場の活用、水源の森との連携)	
新規 昔ながらの川遊びの復活	
新規 町一斉に水辺芋煮大会の実施	
◆水辺に親しむ施設を整備する	
強化 水際環境整備	
新規 親水活動を行う(行いたい)エリアの設定	
新規 親水活動エリアにおけるハード整備	
新規 集落毎に身近な、親子で楽しめるような小規模な親水空間の整備	
7. 水辺で楽しむ	
◆ダムや置賜白川における楽しみ方を見直し、広める	
新規 植生・自然・景観・貯水量・堆積土砂量から親水エリア設定	
強化 ダム放流・利用に関する情報提供	
新規 「ダム湖利用のルール」づくりとPR	
新規 「安全管理に関する仕組み」づくり	
◆水辺で楽しむ活動を推進する	
新規 巡視船試乗の拡充	
新規 ボート・カヌーの活用促進	
新規 わかさぎ釣りの可能性に関する調査	
◆水辺のイベントを開催する	
強化 ダムとのふれあいの日、一日管理所長の充実	
新規 既往イベント参加者のダム見学会での受入れ拡大	
新規 ホット・カヌーによる川下り(川から景観を提供)	
新規 水辺コンサートの開催	
新規 ダム湖を活用した経済的効果と保全活動を兼ねたNPOの育成	

2. 水を有効に活かし、日常生活に密着させる	
◆水利用の実態を探り、望ましい水利用について考える	
新規 地域における水利用の実態の変化を探るため、地域住民が話し合いの場を持つ。	
新規 今後の地域における望ましい水利用のあり方について話し合う。	
◆水利権について理解を深める	
新規 有識者を講師とした水利用フォーラムの開催を通じて、水利権に関する理解を深める。	
◆生活用水の水利権の取得、工業用水の転用を申請する	
強化 非かんがい期の生活用水の水利権の取得、工業用水の一部転用(上水)を申請する。	
新規 通年通水を目指して、工業用水の一部転用(生活用水)等を検討し、申請する。	
新規 新規水利権取得や工業用水の転用の進捗等について積極的に情報発信する。	
◆新たな水の有効利用の推進	
新規 地域が必要とする水の有効利用を推進する。	
4. 水辺の環境を守る	
◆水辺環境の状況を調べる	
強化 住民による調査隊	
新規 河川水辺の国勢調査(ダム湖周辺)の公開(チラシ配布等)	
新規 白川流域自然生態診断書の作成	
◆水辺環境を改善する	
強化 清掃・草刈り等のイベント化	
強化 立木・流木・刈り草の有効な処理方法の検討	
強化 流木の無料提供、炭焼き窯の継続と拡充	
新規 湖水際部・堤防沿いの植栽(サクラ、モミジ等)	
新規 地域要望に基づく白川の水辺環境の整備	
新規 河川アダプト制度等の普及・啓発、導入	
◆多様な生物の生息環境の創造	
強化 白鳥飛来地の保全	
強化 ホタル一斉調査の実施→ホタルマップ作成	
新規 魚道、ビオトープ等多様な生息環境の整備	

1. 白川ダムや置賜白川について理解を深める	
◆水循環、水源地域や川のあり方、環境について知る	
強化 地域学(案)の解説書作成	
新規 地域学講座等の総合学習での取り組み	
◆ダムの仕組み・機能(治水と利水)を知る、伝える	
新規 町ホームページでの情報発信	
新規 既存イベントの中での情報発信	
新規 白川歳時記による情報発信	
新規 山の玄関口における情報発信機能の設置・案内会への設置	

2. 水を有効に活かし、日常生活に密着させる	
◆水利用の実態を探り、望ましい水利用について考える	
強化 飯豊山穴堰の調査と修復についても検討する	

3. 水を守る(水質改善)	
◆白川ダムや置賜白川の水質の状況を調べる	
新規 学習会の開催	
◆水質の改善のための対策を実施する	
強化 集落排水整備、合併浄化槽整備	
新規 水質啓発活動(清流米、合成洗剤の不使用運動)	
強化 大暗渠砂防堰堤+既設砂防堰堤のスリット化	
◆水源林の保全と適切な管理・利用	
強化 間伐材の活用を促進	
強化 切り株オーナー制度、フェンソウツア等の企画	
新規 民有林の保全と適正な利用のための方策の検討	

4. 水辺の環境を守る	
◆水辺環境を改善する	
新規 不法投棄の防止のPR	

5. 地域の景観を守り、育成する	
◆景観資源の把握とPR	
強化 絵画コンクール、写真コンクール	
新規 景観賞のアピール	
新規 ダム湖の上下流を含めた美しい地域景観探し→白川景観コンクールの実施	
新規 景観写真集の発刊	
◆景観の保全と改善	
強化 耕作放棄地の調査と貸し出し条件の調査	
強化 耕作放棄地対策(葉の花、ひまわり、レンゲの植栽→油・蜜の採取→販売)	
新規 地域景観散策路のリストアップ	
新規 景観マップの作成	
新規 カントリーウォーキングネットワークの認定・整備の検討	
新規 ビューポイントの広場整備	
◆地域全体の景観づくり	
新規 景観維持のための住民やボランティアの育成	
新規 緑のまちづくり条例等の見直し、景観法に基づく景観条例づくり	
新規 条例勉強会と自主的景観創造プランの作成	
新規 車と人が共存できる県道づくり	

8. 生活環境を守り、人を育てる	
◆地域のあり方考え、地域活動のシステムを整える	
新規 地域ニーズを把握するための情報拠点(村の暮らしのコンビニ)づくり	
新規 どのような地域支援が必要かを考える	
新規 地域活動に関する勉強会や講習会の開催	
新規 自主防災活動の推進[地域のプラス要素・マイナス要素、人的情報(災害弱者)を示すマップづくり]	
新規 地域で支え合うシステム(雪かき、援農、ゴミ拾い、地域通過)を検討する	
新規 地域で支え合うシステムの構築	
新規 新しい山の生業開発	
◆地域の連携を深める	
新規 地域連携を深めるために必要となる組織・施設を考える	
新規 既存組織の連携による地域支援の総合的な(あるいは目的別の)組織(NPO)の立ち上げ	
新規 情報一元化、NPO支援、まちづくり推進のための行政窓口の創設の検討	
新規 バリアフリーな交通システムの創出	
新規 高齢者の共同住宅の整備	

9. 外の人との輪を広げる	
◆交流・連携のあり方考え、情報を発信する	
新規 昔話や伝説の発掘・調査=地域魅力の再発見	
強化 パンフレット、ホームページによる情報発信、イベント参加者の意向調査	
新規 情報発信内容のモニタリング(地域外来訪者、地域内若年・青年層)の実施	
新規 交流・連携のあり方検討する	
強化 環境と経済の好循環型まちづくりの検討	
強化 グリーンツーリズム・エコツーリズムの充実	
新規 中山間地域での創造的なライフスタイルの発信	
◆交流・連携に関するシステムや施設を整備し、イベントを開催する	
新規 各種イベントにおける環境保全体験・環境学習のプログラム化	
強化 各種イベントによる交流人材の育成	
新規 水源地域のアピール(ファンクラブの設置)	
新規 来訪者への「ふるさと便」の提供	
◆交流・連携、観光、定住の促進を図る	
新規 長期山村留学	
新規 農林業の担い手づくり	
強化 空き家調査、貸与条件調査の実施、情報発信	
新規 定住化促進ビジョンの作成	
新規 空き家を活用した季節別荘・住宅の整備	
新規 「ふるさと回帰支援センター」づくり	

白川ダム・置賜白川に関する取組施策

自然環境、地域づくりに関する取組施策

交流・連携に関する取組施策

